

非住宅建築物の 木造化が進む！

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行され、2年が経過した。非住宅の木造化・木質化の物件も徐々に増えてきている。この新たな市場をより確実に発展させるには、どのような取組みが必要なのか。中規模大規模木造建築物を手がける設計事務所と集材材の製造会社の代表に、お話をうかがった。

1 「市場流通材、在来工法で建てる、中規模木造建築物が狙い目です」

特殊な材料や工法を使わなくても、大型の木造建築物は建てられる。今後、需要が増加するとされる、中規模の木造高齢者施設や店舗の建設が、中小工務店にとって大きなチャンスとなる。

(株)松本設計

東京都国立市東1-16-46 M's国立
<http://www.matsumoto-sekkei.com/>



松本照夫氏
(株)松本設計 会長

非住宅の木造化に対する市場ニーズは、
増えていますか？

木造化、木質化のニーズはかなり増えて
います。木材の利用促進はCO₂削減とい
うテーマに合致するのに加え、高齢者の居
住性にふさわしい心地の良さ、財務上の有
利性などから、ハウスメーカーやゼネコン
も、積極的に乗り出しています。2010
年の「公共建築物等木材利用促進法」も追
い風となって、非住宅の木造化への意識は、

来の工法でまかなえますか？

誰でも導入し易い市場流通材を使い、在
来工法やツーバイフォー工法で中・大規模
木造建築物を作っていくことがポイントと
なります。これで十分やっていけると関係
者が認識することが、まず重要でしょうね。

特殊な材料を使うとしても、市場に流
通する集成材やLVLなどを活用します。

また大型建築物だからといって、別に特殊
な工法に依存する必要はありません。これ
は設計する側が認識するべき問題といえま
す。「それでは大空間が作れない」と心配
する人がいますが、市場流通材を使ってロ
ングスパンを飛ばしたとしても、プラン段
階から耐力壁の位置を工夫するなどして
構造計画をすれば、可能です。

それから耐火や構造の面で、中・大規模



上 大型住宅のような外観の複合介護施設
「優つくり村石神井台辺」(東京都練馬区)
左 木のぬくもりが利用者に好評。延床面積は818㎡



木造建築に二の足を踏む工務店さんがいま
すが、そういうことは建築士に任せればい
いことです。建築士と工務店の役割分担を
きちんと整理し、その役割の中で工務店さ
んが今までやってきたやり方で施工に徹す
れば、何の問題もありません。

基本的には、建築士が特殊な材料を使
わない、そして特殊な工法にこだわらない
ことが大前提です。そうすればコスト面で

鉄骨造やRC造と差別化を図れ、地場の工務店さんも参入でき、非住宅の中・大規模木造建築が普及していくと思います。

中小工務店が、この市場に参入するには どうしたらよいでしょうか？

私どもは3年ほど前から積極的に中規模・大規模木造建築に関わってきましたが、そこで分かったことは、市場で一番需要のあるゾーンは延床面積1000㎡前後建物だということです。この規模なら在来工法でも対応可能です。このあたりをボーダー

「優つくり村石神井台沼辺」は、市場流通材を使って、地場工務店が施工を行なった



木造の梁を避けて
設備を取り付ける

ラインとして計画された建築物なら、従来工法しか経験のない中小工務店さんでも問題なく参入できます。それ以上大きな建物では、施工効率と耐火要件などから、どうしてもツーバイフォー工法の方が有利になるので、在来工法しか経験のない中小工務店さんでは難しい面も出てきます。ですから、この1000㎡前後の中規模木造建築に狙いを定め、参入することをお勧めします。

実際に昨年、東京都練馬区で取り組んだ複合介護施設（グループホーム＋小規模多機能介護）は延床面積が818㎡で、地場の工務店さんが施工しました。初めは少し不安に思われたようですが、結果工期も短縮して素晴らしいものを作り上げています。（写真参照）市場流通材を使い、いつもの工法で行なうのですから、普段よりポ



エレベーターシャフトはフレームを鉄骨で構成

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」 （2010年5月公布、同年10月施行）

木造率が低く、今後の需要が期待できる「公共建築物」を、RC造・S造などの「非木造」から「可能な限り木造化・木質化を図る」考え方に転換。耐火が求められる低層の公共建築物については、積極的に木造化の促進が求められている。また、木造化が困難でも、内装などの木質化の促進が謳われる。

リユームが少し大きくなった施工というだけで、大きな問題はなかったわけです。

ただ問題があるとすれば、それはエレベーターやスプリンクラーなどの電気・設備系の納まりと、長期に及ぶ工程管理です。ただしこのネックも、設計事務所からサポートを受ければ特に難しくありません。

中小工務店にはチャンス到来ですね。

そのはずなのですが、実際に手を上げる工務店さんが少ないのです。「中・大規模建築物をやります」という施工業者の絶対数が少なく、市場では困っているというのが現状です。新築住宅着工戸数が2007年の120万戸をピークに落ち続け、現在は年間80万戸台です。この先60万戸にまで落ちるといわれる中、非住宅木造建築には新しい波が到来しているわけです。このチャンスを見すみす逃すのは、もったいないと思いますよ。

工務店さんは「やったことがないから」と躊躇するかもしれませんが、まずは、積極的に「やってみよう」という意思表示をして、新しい分野にぜひチャレンジして欲

しいものです。現在、工務店の会員組織であるJBN工務店サポートセンターでも、積極的に中規模木造建築を扱っていかうと、勉強会などを開いています。また弊社が事務局となっている「大規模木造.com」サイトで、中・大規模木造に関する様々な情報発信を行なっていく予定です。

非住宅木造建築物でチャンス分野は？

団塊の世代が今年から65歳を迎え、いよいよ高齢者人口が増えていきます。今後10年間は、高齢者施設関連が圧倒的に足りなくなり、施設のほか、高齢者住宅の需要が相当増加すると思います。

今年3月に竣工した千葉県松戸市の大規模木造老人ホーム（耐火木造ツーバイフォー工法2階建て、延床面積4000㎡）は、木造フレームのためか館内がとても暖かいんです。また、車椅子で移動されていた方が長い廊下を歩くようになるなど、「木」の持つ力は計り知れないと改めて思いました。そうした意味でも、高齢者施設、住宅は今後、木造化がもっと進んでいくのではないのでしょうか。

そのほか、最近は店舗の木造建築物が比較的多いようです。特にフードチェーン店やコンビニエンスストアの木造化は、加速度的に増えてきたように思います。現在、鉄骨造やRC造のコストが資材、労務費の高騰により上昇傾向にあります。今後はコストの面でも、木造での差別化が図れると思います。そのためにも、市場流通材でコストを抑えることが必要となるのです。